

まなび通信

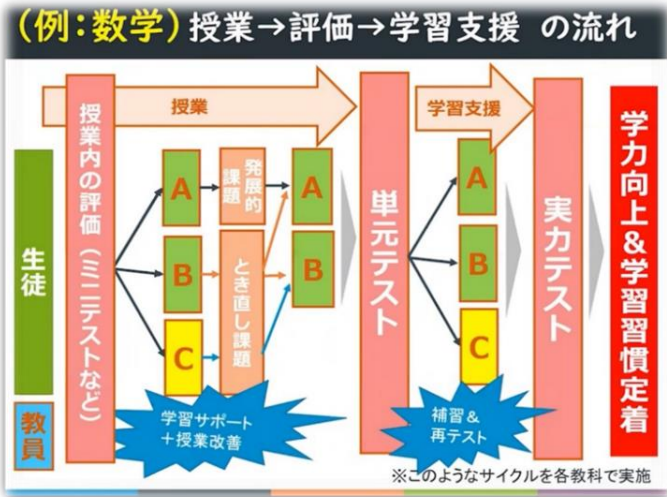


R5年度 2学期号
発行者:小津中 まなび担当

全国学力調査より 小津中の学びを検証 45期生の成長と小津中のこれから

今回は、現3年生(45期生)が、小津中学校の3年間でどのような学びをしてきたのか。それによって、どのような力が身についたのか、どれだけ学力が成長したのかを見ていく中で、小津中学校の取り組みを検証したいと思います。

小津中学校では、生徒の学力を高めるための大幅な「学びの改革」を令和3年度から行っています。それが、定期テストの廃止です。きめ細やかな評価と、学習内容の着実な定着をめざし、単元テストと授業内の評価をもとに何度も学び直すことができる「学びのサイクル」をつくってきました。また、水曜日6限には、「OSU チャレ OSU サポ」を実施。先生に質問のできる OSU チャレ、復習中心の学習支援 OSU サポ、また自習教室などを設け、個々の学習状況に応じた学習支援体制を充実させてきました。

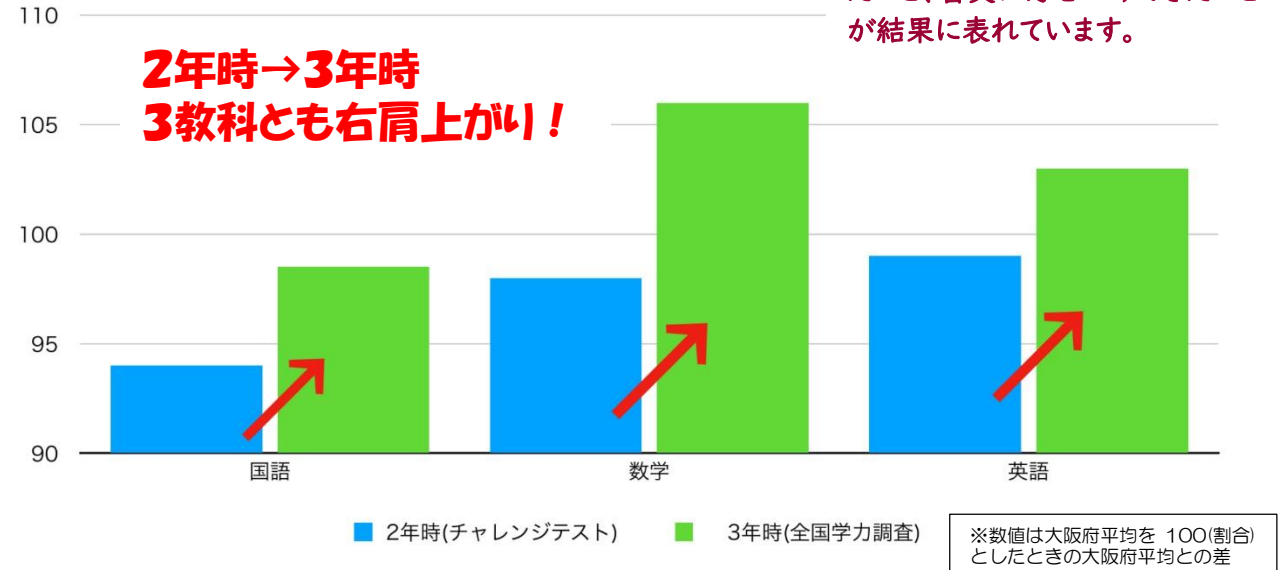


45期生の皆は、こういった小津の学びのサイクルの中で、1年時から学習に取り組んできました。学習面だけでなく、さまざまな教育活動の場面で、主体性や前向きさを育ててきた45期生。1年生の頃から本当に成長しました。その結果が、4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果にも表れています。3年間かけて着実に学力を伸ばしてきたことが分かります。

45期生の持っているエネルギーとキラキラ輝く主体性。これからも仲間とともに大切にし、よりよく成長してほしいと願います。

★現3年生(45期生) 学力の推移のグラフ

45期生が学力面でも成長してきたこと、着実に力をつけてきたことが結果に表れています。



★学力調査の結果から見た考察

成果 ① 記述式の問題の正答率が高い！！

(例) 国語：問1四《目的に沿って自分の考えをまとめ、記述する》 府比+8.4 全国比+4.0
数学：問8(3)《事象を数学的に解釈し、解決方法を説明できる》 府比+11.9 全国比+8.0

日頃の授業からさまざまな教科で自分の考えを記述する場面があり、抵抗感なく取り組めたと考えられる。また、例のような思考・判断・表現の観点の問いについて、正答率の高さが見られたのは、班の間と課題解決をしたり教え合い・学び合いをしたりする授業づくりを日頃から行っているからと感じました。

② 無解答率が府や全国に比べ、全体的に少ない！！

(例) 英語：問8(2)《英文を読み、自分の考えと理由を書く》無解答比 府比-10.3 全国比-7.2

日頃の授業、またさまざまな教育活動の場面で、失敗を恐れず挑戦する姿勢が育まれています。小津中学校の学校のコンパス「卒業時にめざす姿」の意識の芽生えが感じられます。失敗したとしても、互いに認め合える安心感もあることで、粘り強く問題(課題)に取り組むことができたと感じます。

課題 知識技能の定着にムラ(できている問い/できていない問いに極端な差)がある！！

(例) 国語：問3二《文脈に即して漢字を正しく書く「押し量って」》 府比-15.3 全国比-11.6
数学：問5《累積度数の意味を理解している》 府比-11.0 全国比-13.5
英語：問5(1)《情報を正確に読み取ることができる》 府比-6.3 全国比-7.9

昨年同様、学校全体の課題として、知識・技能の定着や積み上げが見られます。思考・判断・表現の力を獲得していく上でも、知識・技能の力の獲得は重要であり、学校としての体制づくりが求められます。

今年度、本校では、知技の定着と忘却に強い AI ドリル「モノグサ」を採用し、活用中です。授業をはじめ、OSU チャレ OSU サポ/家庭学習などでも、積極的に活用していきます。

OSUチャレ / OSUサポ

各学年で生徒の実態に応じた学習支援体制を検討しながら運用

OSUチャレ…学習会/質問会

- ・プリント学習・タブレット学習
- ・生徒の質問に答える

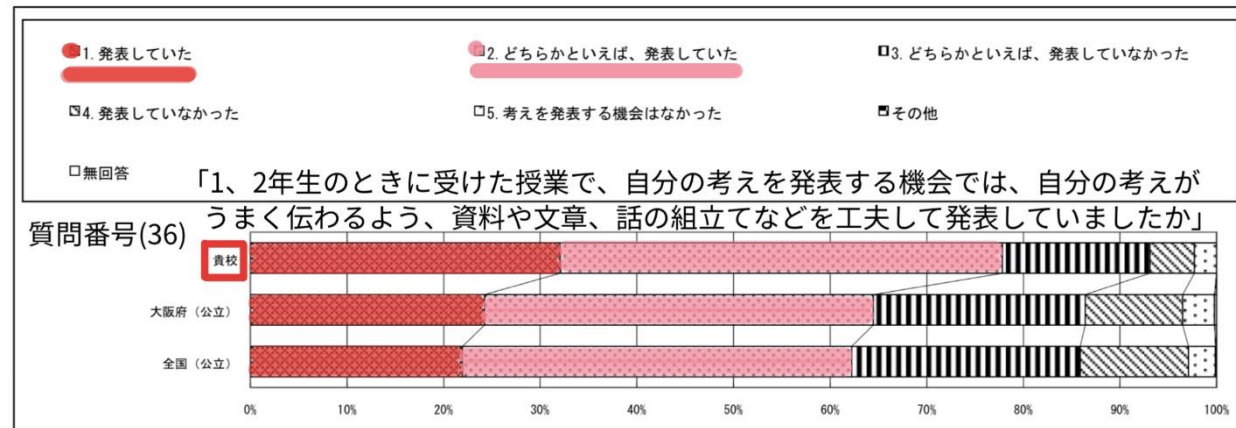
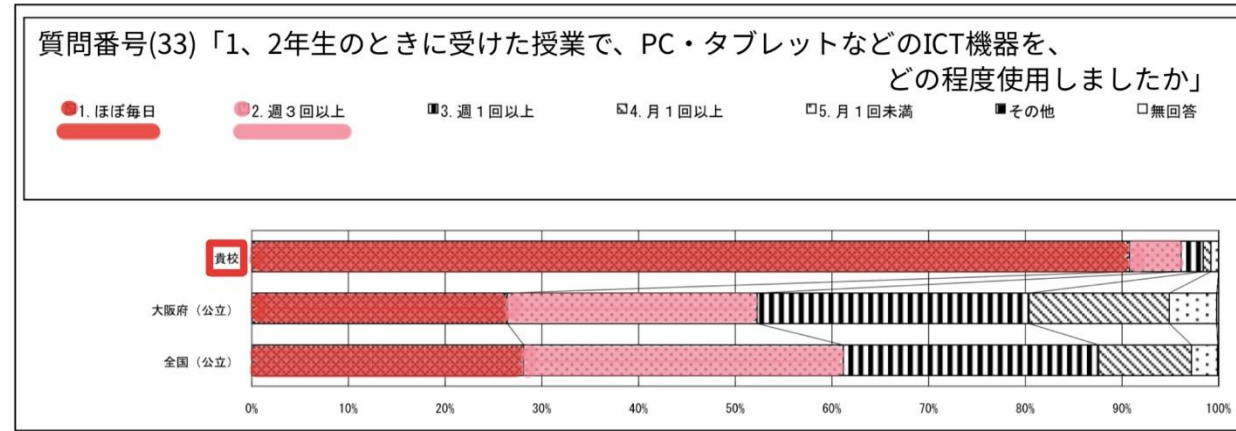
OSUサポ

- …復習中心の**学習支援会**
- ・「努力を要する」生徒を抽出
- ・学習後、適宜**再テスト**を実施

★学力調査のアンケート結果から見た取り組みの成果

80項目のアンケートに生徒は回答しました。その中で、特に大阪府や全国と数値に差のあったもの、小津中学校として結果をもとに考察を深めたい4つの項目について下に示します。

【成果が表れているもの】



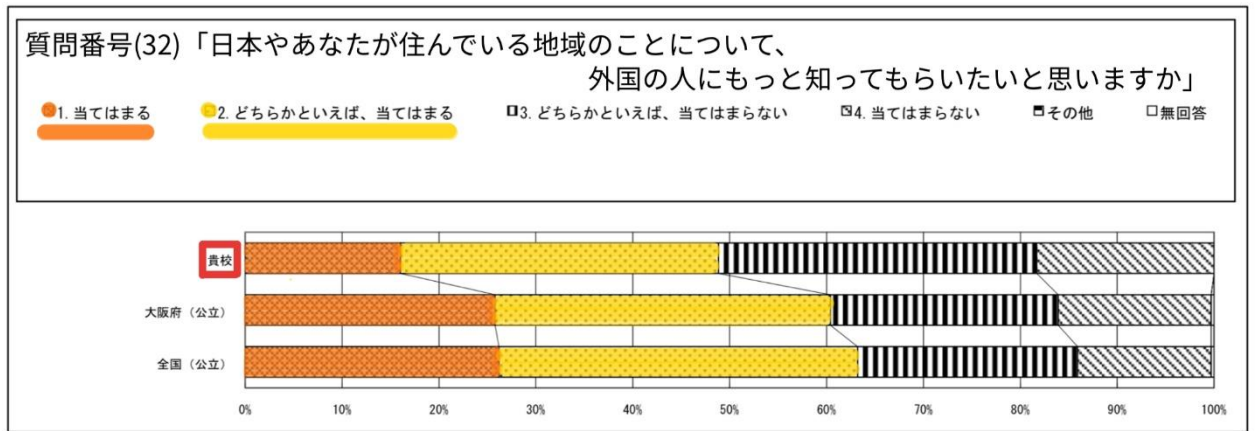
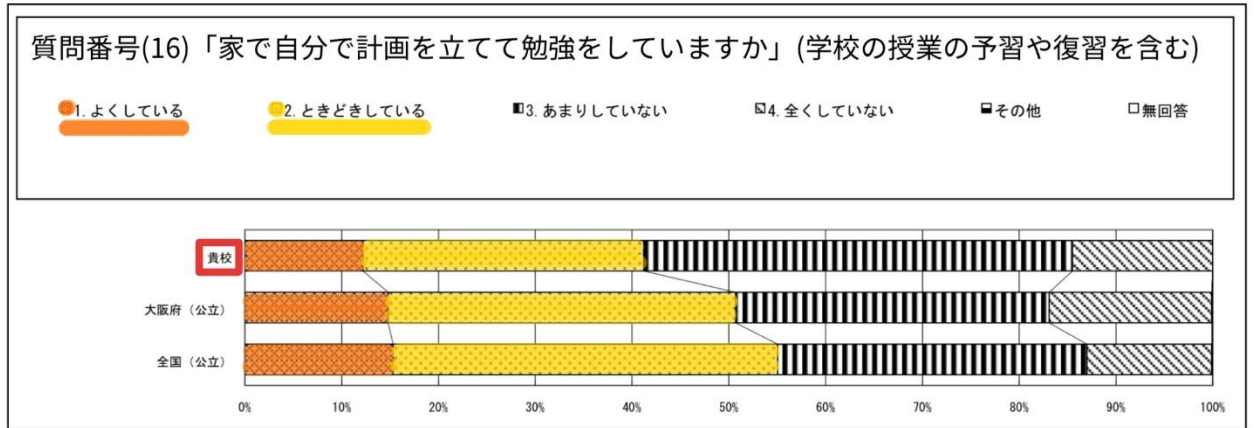
ICT活用は小津中学校の強みです。さまざまな教科・領域で活用が見られます。生徒が主体的に活用する場面も見られます。また、相手意識や目的意識をもちながら発表する授業づくりを進めることもできています。情報活用能力と言語能力の育成を意識した授業づくりを今後も継続したいです。



家庭学習面では“計画的に”勉強を進めていくことに課題が見られます。自分の強みや弱みを自分なりに理解しながら、自立・自律した家庭学習を求めていると感じています。

また、「日本や住んでいる地域について、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」の項目については、ポルトガル等諸外国との交流がさらに深まっていく中で、地域や社会・世界により視野が広がっていくこと・意識の高まりが期待されます。

【課題が見受けられるもの】



★小津中学校 今後の学びの方向性

*ワクワク感のある授業、自分に引き寄せて考えを深められる授業をめざして

- ・中学校の授業が「小学校のどういう学びに繋がっていたのか」「高校や卒業後のこれからのどういう学びに繋がっていくのか」を、生徒が気づきながら授業参加できるような工夫のある授業づくり
- ・【教科と教科】、【教科と地域社会や世界】、【本年度新設の本校独自教科「共創」(プロジェクト学習で個の学びを深めながら)と教科や領域の学び]それぞれにおいて“繋がる” “繋げる”授業づくり
→日々の授業改善・先生同士の授業相互参観・校内研修会・小学校の先生方との授業づくり交流会・生徒による授業アンケート などによりよい授業づくりをめざす

*知技の獲得に向けたAIドリル「モノグサ」の積極的活用

- ・学調の結果より、学校として知技の定着に課題があることを再認識(昨年度も同傾向)
- ・学習の忘却に強く、記憶度と学習状況の可視化が図られるAIドリル「モノグサ」の積極的活用へ
- ・授業時や小テスト(プレテスト)、OZU チャレOZUサポや家庭学習などさまざまな場面でよりよく活用し、自学自習の促進や個別最適学習の一環としていく
→取り組みの進捗を生徒や保護者にフィードバック・モノグサキャンペーンの継続など模索したい